

1 研究主題 「言葉の力を育てる国語科の指導 ～言語感覚を磨く指導の工夫～」

2 内容・方法

- (1) 「言葉の力を育てる」ための授業の在り方を検討する。
 (2) 「言葉の力を育てる」ための授業研究を行い、成果と課題を明確にする。

3 活動の実際

期日	実践項目（指導者）	会場
4／13（水）	○部長、副部長の選出 ○活動計画立案	三川小
5／11（水）	○国語科情報交換会 ・新教科書教材の実践アイデアを持ち寄る。	津川小
6／15（水）	○講話 「言葉の力を育てる国語科の指導」 講師 胎内市立中条小学校 計良省吾 先生	津川小
8／24（水）	○指導案検討会	ふるさと交流川屋敷
9／14（水）	○授業研究 授業者 石塚恵美（西川小）	西川小

4 成果と反省

（1）国語科情報交換会より

本年度より採用された新しい国語の教科書の中から各自が単元を選び、大まかな指導の構想を考えて発表した。会で取り上げられた単元には新しい教科書になり追加されたものも多く含まれていた。会の実施時点では今後の指導をどのように進めていくかを考えていた段階であったため、こうした会は今後の指導のアイデアを得る場となり、会員の助けとなった。

(2) 講話より

阿賀町小教研の本年度研究主題「言葉の力を育てる国語科の指導 ～言語感覚を磨く指導の工夫～」をテーマに、胎内市立中条小学校の計良省吾先生から講話をいただいた。

前半では、言語感覚について学術的な視点からお話しいただいた。その中に、なぜ言語感覚を豊かにさせたいのかという理由として「その人にとってはその人が獲得した言語の量の分しか感覚や認識はない。」というお話があった。国語科が子どもの成長に与える影響を考えさせられる内容であった。

後半では、具体的な資料をもとにした国語科の指導法についてのお話をいただいた。通常の授業で国語辞典を継続して活用する指導形態を取ることの有効性について知ることができた。また、『読む』領域における教材別『読みの観点』ということで、全学年の物語文・説明文の観点およびその観点ごとの指導の仕方を細かにご指導いただいた。すぐにでも日々の指導の中に生かせる内容であり、大変有効であった。

(3) 授業研究より

授業研究及び指導案検討会をとおして、国語科の指導についての研修を深めることができた。

①授業の概要

i) ねらい

易しい文語調の俳句について、情景を思い浮かべたり、五・七・五のリズムや言葉の美しい響きを感じ取りながら音読したりする。

ii) 展開

- 導入では、クイズ形式で現代の小学生が作った俳句や古典の名句を提示し、俳句への親しみや面白さをつかませることをねらった。
- 展開部では、文語調で語られている世界をイメージできるよう、これまでも使用してきている俳句カルタの絵とその絵が表している俳句を穴あきにして提示した。子どもたちは絵からイメージをふくらませ、空いている部分に入る言葉を意欲的に考えていた。
- 授業の終盤では、俳句カルタを行った。子どもたちは取った札が表す俳句を繰り返し暗唱することで、文語調で語られている世界に浸ることができた。



iii) 成果と課題

- 穴埋めの活動ではたくさんの言葉が出てきた。自分で考え、当てはまるものをイメージしていたことに加え、絵を見ることでさらにイメージが深まったと考えられる。
- 現代の小学生が考えた俳句から古典の名句まで幅広く扱ったため、文語調で語られている世界に対して子どもたちは自分の生活との結びつきを感じることもできたようであった。
- 書く活動がなかったので、俳句に対する自分の考えを書いて表出させる場面があるとよりよかった。
- 文語調の言葉が子どもに入っていくかどうかは、普段どれだけ接しているかにかかっている。たくさん文語調に触れられるようにしておきたい。